

## つながる、ひろがる松国 SDGs 探究学習

### 取組概要

#### 1 目的

本校は、校訓「希望 Ezperanza」のもと、社会力豊かなグローバル人材の育成を目指している。学習面、生活面、あらゆる場面において多様な人々との関わり合いを充実させることで、生徒の社会力を育もうと日々教育活動を進めている。例えば、アメリカ、オーストラリア短期留学や長期留学生の受入、台湾修学旅行、JICA や青年海外協力隊経験者の講演会など、多文化理解教育のためのプログラムが豊富である。また、ユネスコスクールに加盟し、千葉県高等学校教育研究会 ESD (Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育) 部会の事務局担当校でもあることから、グローバルなネットワークを活用し、他国の高校生と地球規模の諸問題について考える機会も積極的に取り入れている。

これまで各教科で主体的、対話的で深い学びのための様々な工夫をしてきたが、今年からはその取組を、総合的な探究学習で取り上げ、「つながる、ひろがる松国 SDGs 探究学習」という主題のもと計画するに至った。ここで、紹介する取組は、今年の春入学した1年次向けのもので、今後、引き続き2、3年次での学習へと発展させていきたい。

まずは、3年間の学習の礎となる「主体性を持って対話的に学習をしようとする態度」の育成を目指し、以下の3点を意識しながら、松国ならではの総合探究学習づくりに挑戦した。

- (1) ねらいや課題を明確にした1年次総合探究学習の年間計画、授業の立案・実施
- (2) 現状の問題を自ら考え、情報を取捨選択する力の育成
- (3) 仲間と協働し、調べたものをまとめる力、他者に対して問題を発信する能力の育成

#### 実践内容(4~7月、全7回)

##### ① 学校長による SDGs 講演会

SDGs についての理解を深める。ユネスコ憲章(前文)の読み合わせをし、ユネスコスクールとしての役割、立場、探究活動の意義を理解する。



##### ② SDGs 17 のゴールを考える話し合い

SDGs 17 のゴールと目標の優先順位をつける。自分が一番重要だと思うことについて考え、理由をまとめる。各自のダイヤモンドランキングを元にグループ、クラス協議を実施。



##### ③ グループワークによる課題の設定、情報収集・調査

##### ④ ポスター作り、発表練習



##### ⑤ ⑥ 1年次生徒全員参加によるポスターセッション



##### ⑦ 「SDGs 新聞」作成活動の振り返りを行う



## 2 成果

### (1) 1 年次 SDGs 総合探究学習計画の確立

### (2) 生徒の情報選択能力、情報発信力の醸成

- ・グループの班長達にはチームをまとめる力、活動の要旨を伝える力等が生まれ、協力して作業にあたる姿勢が培われた。
- ・文化祭では、各クラスの「ユネスコ係」が有志団体として参加し、SDGs の活動を身近に感じてもらうための展示を積極的に製作した。内容もユニークで、回収ペットボトルを組んで作成した「持続可能な『愛』『友情』のためのフォトスポット」や、私たちが回収できる物を展示した「かいしゅうの森」、自主制作動画「SDGs の CM」などよく工夫されていた。
- ・フィールドワークや SNS を使ったアンケート調査など様々な方法で情報を集める力がついた。
- ・JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテストに応募 (8 月)
- ・千葉県 ESD 部会主催の夏季生徒交流会に参加 (8 月)
- ・ポスターセッションで優秀だった 4 班が ACCU (Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO 公益財団法人ユネスコアジア文化センター) 主催 Voice of Youth Empowerment に応募 (9 月)
- ・ACCU 日韓教職員交流事業、日韓共同授業に参加、5 名 (9 月 14、16 日)
- ・松戸市国際文化交流ボランティア参加、6 名 (10 月 24 日)
- ・1 年次生徒発案による Halloween 校内清掃ボランティア実施、約 30 名が参加 (11 月 1 日)
- ・聖徳大学高校生の体験発表会参加予定 (11 月)
- ・ユネスコパリ主催のワークショップ Virtual Student Forum に応募、参加予定 (12 月)
- ・発表甲子園 2021 参加予定 (1 月)
- ・麗澤大学高校生プレゼンテーションコンテスト参加予定 (2 月)



持続可能な「愛」「友情」のためのフォトスポット

自分たちで協力して調べたことを発表した体験により、生徒は自信を深めることができた。その結果、多くの生徒が高校生活全般において意欲的に取り組むようになった。例えば、例年になく生徒会選挙への立候補者が増えたのは、様々なことを自分事としてとらえ、よりよくしていきたいと考える力がついてきた証と思われる。また、上記のように、外部団体のイベント (ACCU の英語プレゼン Voice of Youth Empowerment) を始め、各種ワークショップや発表大会にチャレンジしようとする生徒が出てくるようになり、学校周辺の地域清掃、松戸市国際文化祭でのボランティア、敬老の日に近隣の福祉施設へ手作りのカードを送る活動などにも、多くの生徒が積極的に参加するようになった。

11 月 1 日に実施した「ハロウィン清掃ボランティア」は、1 年次生徒の有志が、ハロウィンの仮装をして清掃活動をする企画だった。そこには「楽しんでボランティア活動をしたい。」「国際高校ならではの多文化理解を深める活動をしたい。」という生徒の思いがこめられていた。発案した生徒たちがポスターをつくり、仲間を募り、当日、参加者生徒に説明や指示もした。50 名の仮装をした生徒たちは雑巾を手へ一生懸命清掃に取り組み、「掃除楽しいです!」という感想が寄せられた。

SDGs17 の多様なゴールを目指すには、自分たちの手で世界を変えていこうとする前向きな姿勢や、様々な人の立場に立って物事を考え、他者と協力して何かを表現する協働の姿勢、「だれも置き去りにしない」といった視点が不可欠である。今回の探究学習は、そのような考えだけでなく、これからの世界を自律的に「生きる力」と自分の能力を生活の中で「活かす力」を育むきっかけを作ることができた。今後も、地域に目を向け、社会性を育む「つながる、ひろがる松国 SDGs 探究学習」の時間がより効果的なものになっていくよう、改善を重ねていきたい。

### 3 準備・実施段階の工夫

内容決定に至るまでは1年間に及ぶ学力向上委員会の打合せを必要とした。その中で、専門業者への委託も検討したが、下記の意見をもとに、本校の実態に即した、独自の計画を立てることにした。

「既成の探究学習プランは本校の生徒にあまりマッチしない内容のような感じがする。ユネスコスクールに認定されていることを踏まえて、SDGsの中からテーマを選んで調べる学習をしたらどうか。」

「これからは、実際に直面している問題を強く受け止め、解決するための思考を育てる活動をしていくことが大切だから、その力を育てる内容にしたい。」

「生徒が何かに付度したり恥ずかしがったりすることなく、また普段から仲良くしている友人以外とも、色々な情報交換・話し合い・協力作業をさせたい。どうしても『正解』を見つけたがるので、失敗を恐れて何も発言しなかったりすることが多い。その雰囲気を変えたい。」など。

まず、私たち一人一人が向き合うべき課題であるSDGs17のゴール（「誰も置き去りにしない」という理念のもと国連が2030年まで先進国・途上国ともに達成すべきとした目標）に関連付けて、地域・国際社会の課題とその解決策をグループ単位で調査・探究するといった内容にしようということになった。また、活動のまとめとして、各グループで模造紙1枚を使い、研究した内容をポスターセッション形式で発表させることに決めた。

実施途中での工夫は次のとおりである。

実施内容②、ワークシートを活用したグループ協議では、実施にあたり、「多数決をしてはいけない」「全員の考えにじっくり耳を傾ける」等、話し合いのルールを示し、徹底させた。これは対話的な学習を各教科で多く取り入れている本校では、必ず身につけさせたい能力でもある。また、調べ学習を充実させるため、図書室には県立図書館からも本を借り入れてもらい、SDGsコーナーを設置してもらった。

図書室 SDGs コーナー



実施内容③、④では、面談期間に入ったため、午前の授業後、放課となった午後の時間、生徒たちが調査・ポスターづくりができるように、図書室、PCルーム、グループ学習のための教室を開放、教員を配置して生徒の学習をフォローできる体制をとった。担任は面談をしている間、副担任がその係にあたり、年次教員全員で取り組んだ。

限られた時間を有効に使うため、総合的探究の時間の前には必ず班長会議を行い、「この時間の目当て」を伝えた。グループの班長ごとに細かい修正や指示も班長会議で行った。

実施内容⑤⑥に向けては、発表原稿の書き方や、聞き手とのコミュニケーションの中で話題を広げていくポスターセッションの手法について指示をした。また、聞く側の参観する態度や、フィードバックの姿勢についても指導をした。

ポスターセッションは、1年次321名全員参加だったため、教室棟4階、5階の廊下と教室を全面的に使用し、2時間2展開で実施した。担任、副担任は、クラスの発表を中心に、また、全体を把握する職員も配置し、各クラスを回って生徒へのアドバイスや改善点を指摘し、修正を入れながら進めさせた。感染防止の観点から保護者の参観は行わなかったが、ぜひ見ていただきたい発表が多かった。

令和3年度 1年次「SDGs総探の時間」の活動について	
1 概要 SDGsに関連付けて、地域・国際社会の課題やその解決策を調査・探究する。活動はグループで実施する。最終的には各グループで模造紙1枚を使い研究した内容をまとめて、ポスターセッション形式で発表する。	
2 詳細	
日時	活動内容
4月26日(月)7限	年次集会(場所:体育館) ・司会…【高村(中田)】 ・放送準備…【安齋・牧野】※マイク・プロジェクター・スクリーン ・教室での指導…【担副】 15:30生徒整列完了(縦2列) 15:35~開始 ・はじめの言葉【町田】 ・SDGs講演【校長】…20分間程度 ・今後の活動についての説明【有働】…20分間程度
5月10日(月)7限	ワークシート①②を用いて、クラスごとに活動(場所:各H/R教室) ・教室での指導…【担副】 ・巡回…【町田・有働】 (1)グループ決め ・5人×8班 ・班が決まったら、クラスごとに班名簿を作成 (2)グループワーク ・ワークシート②-ダイヤモンドランキングを用いてSDGsの理解を深める
5月31日(月)7限	ワークシート③を用いて、クラスごとに活動(場所:各H/R教室) ・教室での指導…【担副】 ・巡回…【町田・有働】 (1)課題設定 ・班で話し合い、探究課題を設定する

## 発表（ポスターセッション）

### 1. 発表の流れ ワークシート④参照

### 2. 参観者の心得

ポスターセッションの良いところは、発表者と参観者が相互にコミュニケーションをとることができ、意見交換がしやすいということです。この強みを生かすためには、参観者も積極的な姿勢で取り組むことが必要です。他クラス・他学科の発表もぜひ見学してください。わからないことがあれば、発表者に積極的に質問してください。生徒同士で積極的に意見交換や議論をしてください。

発表者に対するフィードバックシート（別紙）を2枚記入してください。最後に集めて、発表者のもとへ渡るようにします。フィードバックシートを使い切ってもまだ時間があれば、できるだけたくさんの方の発表を見に行くようにしましょう。

班番号	テーマ	関連するSDGs	発表場所
A1	ムダを減らして、地球を守ろう！	11, 12, 14, 15	401教室
A2	飢餓を撲滅し、安全で栄養のある食料を得られるようにする	2	1B教室
A3	コロナが与えた日本の貧困問題	1, 2	1D教室
A4	世界中の医療格差をなくそう！	10, 3	1F教室
A5	安全な水を生活におくろう！	6	1H教室
A6	水質改善と水不足と地球の関わり	6, 14	4階廊下
A7	子どもの貧困をなくそう	1	5階廊下
A8	健康で安全な最低限度の食事	2, 6	5階廊下
B1	すべての人に健康と福祉を	3	401教室
B2	Science is elegant	7, 9, 11, 13	1B教室
B3	アフリカの死亡率について	3	1D教室
B4	発展途上国(アフリカ)と先進国(アメリカ)の差	10	1F教室
B5	地域ごとの活動(アフリカなど)	3	1H教室
B6	貧困が引き起こす問題	1	4階廊下
B7	地球温暖化の対策	13	5階廊下
B8	プラスチックと環境問題	6, 12, 14	5階廊下
C1	基本的な教育ができるようになり、それを教える教員を増やすには	4	401教室
C2	下水道の隠れた力	6, 10	1B教室
C3	妊産婦の死亡率を削減する新生児・5歳未満児の予防可能な死亡を根絶する	3	1D教室
C4	安全な生活は安全な水と共に	6, 17	1F教室
C5	地球温暖化によって起きた自然への影響とそれへの取り組み	13, 14, 15	1H教室
C6	ユニバーサルデザイン	10, 11, 5, 3, 16	4階廊下
C7	誰もが生きやすい社会のために	1, 2, 3, 5, 10, 16	5階廊下
C8	世界で行われている温暖化対策	13	5階廊下
D1	感染症について	3	401教室
D2	貧困に苦しむ子どもたちの暮らし	1	1B教室
D3	循環型社会の促進	12	1D教室
D4	世界中の水	6, 14	1F教室
D5	黒人差別について	10, 5	1H教室
D6	海洋汚染の防止・削減	14	4階廊下
D7	食べ物の廃棄率	2, 12, 14, 15	5階廊下
D8	人や国の不平等をなくそう	10	5階廊下
E1	Let's Reduce HUNGER	2, 12, 1	1A教室
E2	なぜ不平等は生まれるのか	10	1C教室
E3	1人1人がもつ権利	16, 10	1E教室
E4	地球規模の協力関係	17	1G教室
E5	Everyone is different and everyone is good!	5, 10, 16	社会科教室
E6	環境破壊とその原因	7, 11, 13, 14, 15	4階廊下
E7	つくる責任つかう責任～5Rについて	12	5階廊下
E8	地域や国、貧富の違いによる医療格差をなくし、世界規模で医療や福祉が充実する	3	5階廊下
F1	飢餓をどうなくすのか	2, 12	1A教室
F2	ジェンダー問題とその解決策	5	1C教室
F3	環境に対する意識をもとう	12	1E教室
F4	アフリカの貧困をなくすためには	1, 2	1G教室
F5	私たちがができること for アフガニスタン	1, 2, 10, 16	社会科教室
F6	世界と日本の住み良いまちづくりの取組	11	4階廊下
F7	日本と北欧を比べて考える！！社会におけるジェンダー平等	5	5階廊下
F8	世の中の不平等をなくそう	10, 5, 16	5階廊下
G1	生命を繋ぐ	1, 2, 3, 6, 16	1A教室
G2	海に流れるプラゴミ削減	3, 12, 14	1C教室
G3	end the poverty of children around the world	1	1E教室
G4	子どもの命と未来を守る！	2, 3, 4	1G教室
G5	平和と公正をすべての人に(人種差別)	16, 10, 3	社会科教室
G6	差別について	5, 10	4階廊下
G7	すべての人が平和に暮らせる社会をつくるために私たちがができること	3, 6, 16	5階廊下
G8	LGBTQと社会のつながり	5, 16	5階廊下
H1	世界の子どもに平等を	16	1A教室
H2	Better future without hunger!!	2	1C教室
H3	幼い子ども飢餓について	2	1E教室
H4	アフリカの子ども貧困について	1	1G教室
H5	世界の飲み水について	6	社会科教室
H6	世界中の人が教育を受けられる環境に	4, 10	4階廊下
H7	clean water and sanitation	6	5階廊下
H8	人の生まれ持った性質に関する不平等について	10	5階廊下

#### 4 広報・報道実績

本校HP(毎時間) 千葉県教育フォトニュース(6月28日) 学年便り(6月)

JICA 開発教育メルマガ8月号コラム

千葉県ESD部会総会(6月25日) 千葉県ESD部会夏季生徒交流会パワーポイント発表(8月)

千葉県教育フォトニュース

### 千葉県教育委員会

#### 松戸国際高校でSDGs探究活動の成果を発表(6月28日)

平成29年に松戸国際高等学校は、ユネスコが中心となって取り組んでいるESD(持続可能な社会づくりの担い手を育む教育)の推進拠点として位置付けられている、ユネスコスクール<sup>\*1</sup>に認定されました。今年度はその一環として「SDGs(持続可能な開発目標)を意識した特色ある教育活動の推進」を重点目標に、すべての教育活動をSDGsにおける17の目標と関連付けて考える教育を進めています。今回、SDGsの視点から地域・国際社会の課題とその解決策を探り、全64グループがそれぞれのテーマ(64テーマ)に2ヶ月間取り組み、その成果をポスターセッション<sup>\*2</sup>形式で発表しました。

<sup>\*1</sup>ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校。文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールをESDの推進拠点として位置付けている。

<sup>\*2</sup>聴衆に伝えたいことを一枚のポスターにまとめ、それを踏まえて発表すること。一つの会場で複数の発表が可能で、聴衆は興味のあるポスターの前でその発表を聴くことができる。



友達とはどんなテーマに取り組んだのかな？



興味を持った内容の発表を聴き、質問もできます



ポスターセッション形式での発表のため自分たちの伝えたいことを1枚のポスターにまとめて発信します



全64グループがそれぞれのテーマに2ヶ月間取り組みました

千葉県立松戸国際高等学校 1年次日より

文責 町田登志子

～落ち着いた高校生活の中で自己理解を深めながら自身の可能性を広げ 進路選択の幅を広げよう～

<生活について>

ちらほらと体調不良の生徒が出てきています。季節の変わり目などで体調を崩さぬよう、御家庭でもお気を付けてください。また、慣れない登下校で交通事故やけがをする生徒も多くなります。時間に余裕を持って送り出していただければと思います。特に雨の日のバスは30分近くも乗れずに並んでいた！ということも聞きますので御注意ください。(バスの遅延証明はできません。)また、例年、SNSなどの夜更かしなどから生活習慣が崩れる生徒が出てきます。スマートフォンなどの使い方を御家庭で話し合う機会を持っていただくとありがたいです。

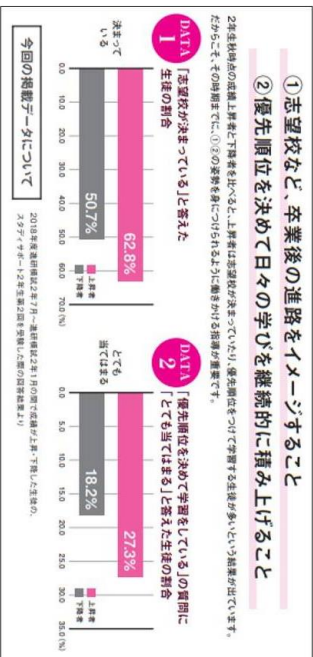
学年では8:30～8:45を朝読書の時間とし、自席で過ごす時間を確保しています。お子さんが今、どんな本を読んでいるのか聞いてみてください。またおすすめの本などは是非、すすめてあげてください。

毎朝の挨拶をはじめ、日常の声掛けを意識して行っています。また、集会時、定期テスト時の服装や頭髪など、本校の生徒としてふさわしいかを確認しています。集会や式典ではセーターの色指定があります。また、スカートの丈は膝を覆う程度としています。他者に思いやりを持ち、ルールやマナーを守り、松国生としての誇りと自信をもって高校生活を過ごさせたいと考えています。

<学習について>

初めての定期テストで学習のつまずきを感じたり、本格化する部活動と学習との両立に悩んだりして、自信をなくす生徒が出てきます。忙しい毎日でも頑張れるように、日々の小さな目標を意識していきましょう。部活動で学習時間がとれないという場合、朝、30分早く登校して自習をするなど、各自にとってベストな工夫をしてください。

以下の表では意識の高い生徒ほど学習の成果が出やすい(上昇しやすい)ということがわかります。



進路よりお配りした「進路進学ガイド」P4、5P13～16をご覧いただき、ご家庭で3年間の過ごし方について話をさせていただきます。1年の今の時期は「視野を広げるときである」と考え、科目選択のための講演会(5月19日実施)や教育実習生に話を聞く会などを実施予定しています。



科目選択のための講演会

Classi では学習動画を利用し、基礎学力の定着や学校の学習を補助することができます。「その教科が苦手だから」という理由で将来の学びの選択範囲を狭めるほど悲しいことはありません。中学の総復習を夏までに終わらせて、自信を持って2年次の科目選択に臨みましょう。

<総合探究の時間>

現在、SDGs探究学習を行っています。SDGsの17のゴールから自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析してまとめ・表現する学習です。5月31日の学習では「課題のテーマを決める」でした。皆さんの参考文献あたり、高校生(国際高校の！首都圏の！)だからこそその視点をもって、世界の課題と自分の課題と原因を複層的にとらえ、現在の社会問題に対して解決の手立てや、あらたな価値を見いだす力をつける機会としたいと考えています。ポスター発表は6月28日です。



SDGs探究の時間



<ユネスコ活動>

本校はユネスコスクールに加盟しており、その理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践しています。また、ESD(持続可能な開発のための教育)の推進拠点として位置付けられています。「松国ESD輝き隊」、地域清掃ボランティアを調査最終日に行いました。1年次は各クラスのユネスコ係を中心に、50名ほどが参加しました。今後も活動の場を増やしていきます。



松国ESD輝き隊



## わたしたちと国際協力・SDGs ～学生の声～

現在、学校でも多く取り入れられている開発教育・国際理解教育やSDGs学習。今、国際協力やSDGsに強く関心を持つ学生は、どのような授業や活動がきっかけになったのでしょうか。今回は、高校生と大学生に取材を行い、教員が授業をつくるヒント、また同世代の学生も参考になるような「学生の声」をお届けします！関心を持ったきっかけや、印象に残った授業、受けてみたい授業、さらに、日頃どのような情報収集をしているのかをお聞きしました。

### 高校生の声

<取材にご協力いただいた高校生の皆さん>

明治学園中学高等学校(福岡県) 高校3年生 目(さっか) 淑乃さん  
千葉県立松戸国際高等学校 1年生 榎本 隼大さん、深山 萌日さん

#### 国際協力やSDGsに興味をもったきっかけは？

目さん(目): 中学生の時アメリカの大学を見学する機会があって、英語が理解できない不便から、学ぶにもその前のハンディキャップがあると感じました。そこから、生まれた国によって何かの機会が制限されるような状況をなくしたい、と思うようになりました。

榎本さん(榎): 学年集会で、校長先生からSDGsの各ゴールについて話を聞き、世界で起きている飢餓問題に関心を持ちました。学校での授業以外にも自分で調べて、世界のそれぞれの地域で飢餓に苦しむ人がどのくらいいるか、などを学んでいます。

深山さん(深): 学校の総合学習・探究学習で、SDGsについて学んで発表するプログラムがありました。班に分かれて、4ヶ月間かけて調べ、発表の準備をしていきました。それを通して、私は世界の水問題に興味を湧いて、JICAのSDGsに関するWebページなどを見て調べるようになりました。



目さんは、2020年度JICA国際協力エッセイコンテスト(高校生の部)で文部科学大臣賞を受賞しました。

●入賞作品「私と世界の接点」はこちら●

『世界の不平等に関心を持っていて、いろいろな人が互いに「ちがいを理解して、差別のない、人と人のつながりをもてるような社会にしたい」という思いから、このエッセイを書きました。』と話してくれました。



#### 今までに受けた、おもしろかった授業・印象に残っている授業は？

(目) 高校1年生の時に、自分の興味のあることを調べる「課題研究」の活動がありました。私は修学旅行とも掛け合わせて、海外からの観光客にとっての日本の環境を調べるために、いくつかの大型百貨店にアポを取ってインタビューをしました。学校が関わっていないと、なかなかできない体験だったと思います。

(榎) 中学校の公民でSDGsについて教わったことが印象に残っています。世界にはそんなに課題があるんだ！と驚きました。

(深) 地理の授業で酸性雨のことや環境破壊のことを教わったことが、調べ学習をする時にもつながって、その結びつきが印象に残りました。



#### わたしたちは、こうして情報収集しています！



(目) 珍しいと思うんですが、私は新聞が好きで、毎日読んで、わからない言葉があったら自分で調べるのが習慣です。広告チラシにもヒントがあって、地域の企業がSDGsやエシカル消費について書いていることも多いです。あとはJICA九州やJICA地球ひろばのイベント情報も定期的にチェックして、興味のあるものに参加したり、最近では、学校で先生が雑談として話していたことの中から、途上国でのコロナ対策を知ることができました。

#### こんな授業、こんな教材があったらいいな！と思うものは？

(目) 世界の国とのオンライン交流をしたいです。地域の姉妹都市交流などありますが、それで実際に交流できるのは、どこから選ばれた数名だけだし、学校同士の交流は全体で決まったことをやるので、友達にまではなれません。できれば1人ずつパソコンからオンラインに入って、生徒1人に対して海外の人1人で、1対1で話せたら、世界がもっと近く感じられて、SDGsのこともっと自分ごととして学べると思います。

(榎) SDGsのそれぞれのゴールについてもっと詳しく知りたいので、社会科などで1つ1つを学べる機会があったらいいと思います。そして、例えば給食からフードロス減らす活動を学校でできたりすると、知ったことを行動に移すきっかけになると思います。

(深) 私は高校に入るまでSDGsのことを知らなかったので、SDGsや世界の課題について学べる時間が小学生のうちからあったらいいなと思います。

▼JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテストについてはこちら(2021年度作品募集中！9/11まで)

[概要](#) / [2021年度募集案内](#) / [過去の受賞作品](#) / [エッセイを活用した授業実践事例](#)

大学生の声は次のページ

JICA 地球ひろば



千葉県 ESD 部会夏季生徒交流会発表

## 5 取組への反響

生徒の感想 (SDGs 新聞より)

「誰かの気持ちを考え、誰かの喜んでもらえることをする。人の気持ちを考えることがとても必要だと思った。」「課題を調べるとほかの課題につながってくる。だから一つからでも全体からでも取り組めることはどんどんやっっていこう。」

探究活動の前と後での意識の違いを書いた生徒が多く、「初めて知った。」「初めて深く考えた。」「もっと早くに知りたかった。」「自分ができる活動に積極的になった。」などといった意見もあった。

また、道徳の授業や有権者教育などの場でも今回の学習で学んだ問題解決の姿勢が生かされ、「まず相手の気持ちになって信頼を得よう。」「みんなのためにできることを考える。」など他者を思いやる発言が見られた。

生徒の中には、保護者へ SDGs について質問し、一般企業での取組 (「目標 3 すべての人に健康と福祉」のもと保険事業を行っているなど) を教えてもらい、理解を深めることができた者もいた。



## 6 今後の方向性

2年次では「自ら企画した活動」実践の時間を設けたい。そして、その成果の発表が、学習にさらに厚みを持たせ、次の課題が自然に生み出されていくよう方向づけていきたい。そうしたフィードバックを通じて、学び続ける姿勢を育成したい。

また、地域での活動をバックアップしていけるよう、市役所、小中学校、大学、地域のボランティアセンターなどの機関、企業との連携に意識して取り組んでいきたい。そして、活動の発信を積極的に行うことで、より大きなムーブメントを起こしていきたいと考えている。

